

通し番号	5123
------	------

分類番号	R04-14-12-6
------	-------------

パクチーの栽培に適した品種および作型を明らかにしました	
<p>[要約] 晩抽性品種‘サバイパクチー’（トキタ種苗）を用いて、3月～9月播種までは無被覆、11月～2月播種まではトンネル栽培（有孔P0フィルム）することで、12月及び一部の時期を除いてほぼ周年で収穫できる。ただし、生育日数が長い2～3月播種で抽苔することがある。</p>	
神奈川県農業技術センター・生産技術部	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

パクチー（英名：コリアンダー）は、地中海沿岸原産のセリ科の1年草で、近年、需要増加により福岡県、静岡県、茨城県などで栽培が増加しており、県内でも増えている。パクチーは、耐暑性、低温耐性を有するが、8時間日長でも抽苔するとの報告がある。抽苔すると茎葉が硬くなることから、抽苔を回避しないと周年供給が難しい。そこで、複数品種を用いた作期移動試験により、本県の気象条件に適した品種及び作型を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1 生育日数（播種から収穫開始日までの日数）は、4～9月播種は41～52日と短く、11～3月播種は56～84日と長くなる。日長が11～12時間と長く、生育日数も長い2～3月播種で抽苔することがある（表1、図1）。
- 2 抽苔は長日条件で促進されるため、晩抽性品種であっても5～6月は急速に抽苔が進む（図2）。
- 3 晩抽性品種‘サバイパクチー’（トキタ種苗）を、3月～9月播種までは無被覆、11月～2月播種まではトンネル栽培（有孔P0フィルム）することで、12月及び一部の時期を除いてほぼ周年で収穫できる（図3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 本試験研究成果は、施肥量(成分量)をN:P₂O₅:K₂O=6.0:8.0～10.0:6.0kg/10a、条間15cm、株間8cm、低温期(11～4月)は有孔P0フィルムのトンネル栽培した結果である。
- 2 草丈25cm前後を収穫の目安とした。
- 3 種子を包んでいる果皮が硬いため、紙やすりで削り、水に浸漬すると発芽しやすくなる。
- 4 抽苔は長日条件で促進されるため、適期に収穫するとともに、特に5～8月は収穫が遅れないようにする。
- 5 パクチーは長日植物といわれているが、品種によっては、ほぼ1年を通じて抽苔するリスクがある。

[具体的データ]

表1 各播種日における収穫物特性及び抽苔率

播種期	収穫期間	生育日数 ²	1株重(g)	葉数	草丈(cm)	抽苔率(%)	日長 ³ (h:mm)
3月5日	5/9~5/24	65	28.2	15.8	28.4	7.1	11:37
3月12日	5/9~5/28	58	26.3	16.1	27.3	2.8	11:52
3月21日	5/16~5/28	56	21.4	15.2	25.1	0.0	12:13
4月2日	5/24~6/3	52	8.0	11.1	16.1	0.0	12:40
4月12日	5/24~6/3	42	18.1	11.4	21.5	0.0	13:01
4月22日	6/6~6/17	45	17.6	12.0	22.7	0.0	13:22
5月11日	6/25~7/8	45	20.8	11.8	25.1	0.0	13:59
6月11日	7/22~8/5	41	36.4	14.4	37.3	0.0	14:35
7月10日	8/22~9/2	43	31.7	11.6	28.8	0.0	14:29
8月11日	9/24~10/7	44	17.6	9.7	23.9	0.0	13:42
9月11日	10/24~11/5	43	7.8	9.5	20.6	0.0	12:39
11月8日	1/5~2/4	68	19.6	9.5	30.4	0.0	10:37
12月10日	3/3~3/17	84	22.6	12.1	33.1	0.0	9:55
2月13日	4/25~5/8	71	17.8	10.5	24.0	1.6	10:54

注1) 品種：‘サバイパクチャー’。

注2) 10月～2月播種は、11月7日～4月30日まで有孔POフィルムでトンネル被覆した。

注3) 10月10日及び1月10日播種は抽苔率が各々37.5%、17.2%と高かったため、データ省略とした。

²播種から収穫開始日までの日数。³カシオ計算(株)のKeisanサービスで算出した各播種日における日長(参考データ)。



図1 収穫時の外観
品種‘サバイパクチャー’

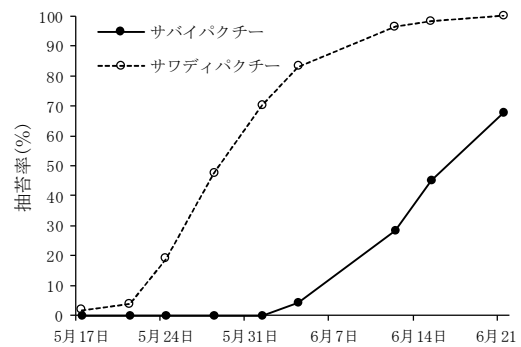
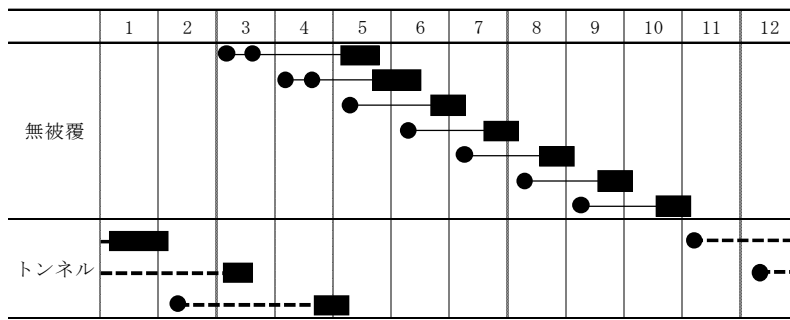


図2 抽苔率の推移
2018年3月19日播種



●播種 ■収穫期間 - - -トンネル被覆(有孔POフィルム)

図3 パクチャーの作型例(品種: ‘サバイパクチャー’)

[資料名] 令和元年度、令和2年度試験研究成績書

[研究課題名] 野菜類の安定生産技術の開発
パクチャー栽培法の検討

[研究期間] 2017(平成29)年度～2021(令和3)年度

[研究者担当名] 上西愛子、吉野飛鳥、安井奈々子

[協力・分担関係]